

第 29 回ふれあいトーク (安心して子どもを生み育てるまちを目指して) 会議記録〈要旨〉

- 1、日 時 平成 28 年 4 月 21 日(木) 午前 10 時から 11 時
2、場 所 高岡市ふれあい福祉センター 1 階 介護研修室
3、出席者 市外からの転入者で子育てしている方 12 名
市長、子ども・子育て課長、広報統計課長

4、会議次第

- (1) 市長挨拶
(2) 子育て支援制度についての説明
(3) 自己紹介・高岡市に対する印象
(4) 意見交換

高岡市に対する印象

参加者

- ・ 県外で出産する人が 1 割近くいると聞いたが、そのほとんどが里帰り出産だと仮定すると、高岡市内に在住する母親の 1 割程度は市外出身者になる。市外出身者の間での情報交換が盛んになればいいと思う。

参加者

- ・ 高岡市に来る前は高岡のことを知らなかったが、来てみると方言が強く驚いた。今は出身地より高岡の方が住みやすく永住したいと思っている。

参加者

- ・ 高岡に来て 9 年になるが、のびのび子育てさせてもらっている。

参加者

- ・ 出産時に入院した際、妊産婦医療費助成を受けることができて大変助かった。

参加者

- ・ 高岡に引越しが決まった時、友人から学力調査上位県でうらやましいと言われた。また高岡はお米がおいしく、子どもがご飯をたくさん食べるようになった。

参加者

- ・ 高岡に来たばかりの頃は周辺に施設などがなく何もない印象だったが、最近は様々な商業施設も増え、子育てに対する支援も充実してきており、災害がなく住みやすい。

参加者

- ・ 富山県外出身の母親は意外と多くきずなも強い。高岡に来た県外出身者の最初の話題は「天気が悪く気分が落ち込む」ということである。本日のような集まりから始まる動きがあれば良いと思う。

参加者

- ・ 高岡子育て支援センターやファミリー・サポート・センターで子どもの預かりをしてもらい大変助かっている。富山県は NICU（新生児集中治療管理室）が多く、県外からも NICU を目的に出産に来る人がいた。周産期医療^{※1}の充実は素晴らしい。

※1 妊娠満 22 週から生後 1 週未満までの期間で、妊娠後期から新生児早期までの時期に、突発的な緊急事態に備えた産科・小児科双方からの一貫した総合的な医療体制。

意見交換

『子育て世代の支援について』

参加者

- ・ 高岡は天気が悪く、妊娠中に落ち込むこともあった。

市長

- ・ 天気の影響も含め、今後様々な人に高岡へ来てもらうためにサポート体制を考えないといけないが、一種のケアシステムが必要だと考えている。特に子育てをする保護者にとっては情報不足が一番の不安要素であるため、まずは、本年4月から運用開始した「ねねット高岡」を利用していただき、併せて、利用者の意見を聞いていきたい。子育てについての相談は電話で受け付けたり、保健師が相談に応じる。

参加者

- ・ 子育てしながら雨の中外出するのは大変である。高岡子育て支援センターも駐車場が隣接しているわけではなく雨に濡れてしまうため、駐車場から直接屋内に行けるイオンモール高岡などに遊びに行ってしまう。高岡市内には、射水市のこどもみらい館や氷見市いきいき元気館などの屋内型の施設が少なく、子育て支援センターも小学生は利用対象年齢から外れてしまい行き辛くなることから、屋内型の施設があればよい。

参加者

- ・ 屋外の遊び場としては古城公園があるが、公園内の遊具が減っており、まちなかにも遊具のある遊び場が少ない。

参加者

- ・ 小学生の遊び場がないため、天気が悪いと家にこもりがちになってしまう。小学生が集まったり、体を動かせるような場所を作ってほしい。

参加者

- ・ 学校の校庭もスポーツチームなどが使用するため、遊びなどでは使えなくなっている。

市長

- ・ クルン高岡の地下など遊具がある場所はあるが、子どもが放課後に過ごせる場所が意外と少ないのかもしれない。

参加者

- ・ 倉敷市では子どもの遊び場を紹介するだけで1冊の冊子を作っていた。施設内の写真や職員からのメッセージなどが掲載されており、子どもが行きたくなるような工夫がされていた。

参加者

- ・ 現在住んでいる地区は田園地区で用水が多く、小学校までの道のりも非常に危険に感じる。また、近隣には子どももいないため1人で遊ぶことが多く、以前は近所に保育園の遊具が残っていたが、保育園舎の取り壊しとともに撤去されてしまい、子どもが寂しい思いをしている。

市長

- ・ 住宅団地であれば、宅地の造成とともに公園が作られるが、田園地帯の場合はそうではない。
- ・ 遊園地などの設置は難しいが遊具の設置は考えていきたい。また、少子化である現

在は、子どもが多かった頃とは異なる方針をもって対応していかなければならない。

参加者

- 本日参加できなかった方から、“壁登りなどができる施設があればよい”“転入したばかりの子育て世帯に対して精神的なケアが必要”“転入手続きの際に子育て世帯におすすめの遊び場を教えてほしい”との意見があったので紹介する。

参加者

- 初めて子どもをもつ家庭にとっては、子育て支援施設の名称だけを聞いてもどのような施設かわかりにくい。

参加者

- 以前住んでいた横浜市では子育て支援センターがなかったため、高岡市に転入した際、施設名だけを聞いてもどのような施設かわからなかった。転入の際に、子育て支援に関する施設の名称と施設の内容を併せて紹介してもらえると効果的だったと思う。

参加者

- “ねねットたかおか”についても本日初めて知った。広く周知するため、PR用のCMを流すことはできないか。

市長

- いろいろな方法で紹介はしているが、情報提供の仕方を考えていきたい。

参加者

- Facebookなどを活用して情報発信していくのも一つの方法だが、高岡市のFacebookは更新が少なく、効果的な情報発信ツールとなっていない。子育てをしていると新聞や広報紙をすべて読む時間がなく情報を収集できる時間にも限りがあるので、市はFacebookなどをもっと活用して効率的な情報発信をしてほしい。

参加者

- 興味がある人は必ずFacebookを見るので、市はFacebookをもっと活用してほしい。保育園から紹介されるまで、ファミリー・サポート・センターで子育て支援を受けられるということを知らなかったし、他の母親も知らなかった。情報が周知されていないのではないかと感じる。

参加者

- 新たにホームページなどを作成しなくても、母親たちが利用しているブログなどに子育て情報を掲載することができればすぐに情報は広がる。県外出身の母親は情報発信力が強いので、そのブログなどを活用してほしい。

市長

- ブログの活用については、今後工夫していくとともに、市のFacebookに子育て世帯向けの記事を掲載していくことも考えていく。

『防災について』

参加者

- 熊本地震の事もあり、県外出身者は、災害時にどのように情報を入手すればいいか心配である。紙媒体では災害時に情報の周知ができなくなるため、子育て情報専用のFacebookなどを開設し、災害時には防災情報も併せて掲載するものにしてみてはどうか。

参加者

- 出身地の神奈川県各市では、防災訓練時には必ず防災ずきんを使用していたが高岡ではほとんど使用されていない。また、災害時に保護者が保育園や学校までスムーズに子どもを迎えに行くことができるような訓練も、高岡では実施していないところがあり、高岡市は災害が少なく安心な反面、災害時の対応が不十分なのではないかと不安である。

市長

- 高岡市は地域ごとに防災訓練をしたりヘルメットなどの防災用備品を保管している。また、通学時の交通安全の見守りや避難訓練もしているが、防災ずきんのような道具は使用していなかった。市によって災害に対する備え方が異なる部分はあると思うが、県外出身者ならではの意見であり参考にしていきたい。

参加者

- 2つの地区をまたいで居住しているため、地震が起きた時の避難場所がわからず、避難図も周知徹底されていないように感じる。両親が県外在住の場合は、親族からの災害に関する情報提供が見込めないため、市のケアが必要だと感じる。

市長

- 災害時には、居住する校区にかかわらず最も避難しやすい指定避難所を利用させていただきたいが、指定避難所は、普段わかりやすいよう校区ごとに表示しており、就学児童がいる世帯の方がわかりやすいような情報掲載となっている。就学児童がいない世帯へも広く情報がいきわたるよう徹底し、100%の安全・安心を心掛けて取り組んでいきたい。

『教育・保育施設について』

参加者

- 富山県の学校は公立が多く教育費はあまりかからないが、子どもの教育について考えたり選択する機会が少なく、教育の多様性に欠けると感じる。教育内容が充実した認可外保育施設^{※2}に、子どもを通わせる県外出身者も多い。

参加者

- 地元の保護者はその地域の保育園に子どもを通わせるが、県外出身者には地元という捉え方がなく、教育内容で子どもを通わせる保育園を選ぶ。

市長

- 保育園にはそれぞれ保育方針があるが、県内では、保育方針の内容より保育時間などで各保育園の特色が捉えられる傾向にある。
- 高岡市のホームページで幼稚園に関する情報を掲載しているが、以前は、市立の幼稚園のみを掲載していたが、現在は私立の幼稚園も併せて掲載している。

※2 建物の広さや必要な保育士の配置数など、国の最低基準を満たしていることを県から確認（認可）され、市町村から公費を受けて運営されている認可保育施設以外の施設。

参加者

- 認可外保育施設は教育内容が充実していても、認可保育施設と比較すると受けられる補助が少ない。
- 認定こども園^{※3}に子どもを通わせている保護者で、上の子は幼稚園部に通っているが、下の子は保育園部の定員がいっぱいで預けられなかったという方もいた。富山県は待機児童0人とのことだが、希望にあった幼稚園や保育園に子ども預けることができないという意味での待機児童はいるのではないか。

市長

- 兄弟と同じ保育園や家の近くの保育園に子どもを預けることができなかったなど、希望にあった幼稚園や保育園に入園できないという状況は確かにある。様々な要望があることは把握しているので、できるだけ希望に合うよう努めていきたい。また24時間保育など様々な機能を併せ持つ多機能型保育施設も備えていきたい。

参加者

- 今後の定住先を考えた時に、子どもを通わせる施設の教育方針を事前に調査し、希望にあった施設があったため高岡に定住することを決めたが、県外からの転入者にとってはそれぞれの幼稚園や保育園の教育内容が分かりにくい。
- 子どもを高岡市内の認可外保育施設に通わせていたが、教育内容が充実した施設で魅力的である。

市長

- 市立の幼稚園や保育園は標準的な教育方針が必要となるが、私立の幼稚園や保育園はそれぞれ特色をもち、それを打ち出すことができる。今後は、市立の幼稚園や保育園でも、県外からの転入者が教育内容をもとに子どもを通わせる施設を選べるように、施設の教育内容を打ち出す意識を持っていきたい。

参加者

- 高岡市では、子どもを私立の幼稚園に通わせている世帯を対象に保育料の減免を行っているとのことだが、認可外保育施設に子どもを通わせている世帯は減免を受けることができない。第3子からでも減免対象となれば、3人目以降の子どもをもうけようという家庭もでてくると思う。

参加者

- 私立幼稚園の就園奨励費補助金^{※4}のような補助制度を、高岡市独自の制度として認可外保育施設にも適用できないか。

市長

- 認可外保育施設は行政の補助対象外であるが、子育て世帯が様々な選択肢から希望にあった施設に子どもを通わせることができるよう、他の幼稚園や認可保育園と同様に情報提供をしていきたい。

以上

※3 幼稚園と保育園の両方の機能を併せ持った施設。

※4 子どもを、私立幼稚園に通園させている保護者を対象にした保育料、入園料などの助成制度。第1子及び第2子が所得に応じた助成対象となり、高岡市では第3子以降の保育料は無料となる。